

関西ペイント PXI 主催の 2013 年 7 月 10 日（水）に開催した PXI インテリア講座についてレポートいたします。講座内容はインテリアにおける【カラー】と【香り】に着目し、以下の 2 本立てで行いました。

- ・ミラノサローネ 2013 に見るトレンドカラー（関西ペイント(株) CD 研究所 石原麻子）
- ・人の心理に大きく影響する色と香りのインテリアコーディネート（(株)ルミナリー 門田玲子さま）

トレンドカラーについてはミラノサローネの調査情報を元に、インテリアコーディネーターの方々が使える情報として、カラーコーディネートやファブリックや家具デザインの方向性などを中心にお話ししました。今年のミラノサローネは一つ一つ丁寧に作られた「手の込んだ上質なもの」がとても多かったです。大量生産、利便性を求めるだけでなく、精神的にも上質感のある丁寧な暮らしが求められているのを感じました。

ミラノサローネについては、2013 年 5 月の PXI サイトインフォメーションに速報レポートを掲載していますので、ご覧ください。

そしてお楽しみの香りの話、【香り】は最近注目されていますよね。

アロマやポプリ、柔軟剤など様々な香りが家の中にはあふれています。今回はインテリア空間における【香り】の在り方について、関西を中心に活動されている株式会社ルミナリー代表の門田玲子さんに講演していただきました。門田さんはインテリアコーディネーターだけでなく、カラーコーディネーター、アロマコーディネーター、フラワーセラピーなどの資格を持ち、日常に潤いをプラスする提案を行っています。

■株式会社ルミナリー代表 門田玲子さん http://www.luminary.jp/top_contents



私たちは五感（触覚・聴覚・味覚・嗅覚・視覚）を働かせながら生活していますが、五感における情報量は、触覚が3%、聴覚が7%、嗅覚が2%、味覚が1%、そして視覚が87%だそうです。

しかし記憶に関して言うと、視覚と嗅覚だと嗅覚の方が記憶に残りやすいとのこと。

そこで門田さんは、視覚による情報と嗅覚による記憶をうまく組合わせたインテリア空間の提案を行っていて、それを「色香（しきこう）空間」と名付けています。

門田さんによると、インテリアにおける「香り」とは「臭い」をコントロールするためのアイテムで、シーンや空間さらには住んでいる地域や立地環境によって「香り」をコントロールすることが大切とお話していました。これはカラーコーディネートのお話と同じなのでとても興味深かったです。

そして今回は参加者の皆さまの嗅覚を刺激して、感性を高めるための実習がありました！

門田さんが持ってきたアロマオイルの香りを当てるものです。

参加者の皆さまは、どこかで嗅いだことのある香り・・・ほらほら、あの香り！何だっけ～と嗅覚を全開に感覚を研ぎ澄ませ、記憶を呼び起こしていました。サンプルの中には私が15年ほど前に嗅いだ香水と似た匂いのものであり、ずっと探し求めていた香りの正体を知ることができたのが嬉しかったです。香りの記憶はやはりすごいですね。とても盛り上がり、楽しい実習でした！

■アロマオイルの香りを分析中



さて、「香り」と「におい」は似た意味ですが、漢字や耳に入ってくる音で大きな違いを感じますよね。

調べてみたところ、「匂い」は良いにおい、「臭い」は悪いにおい、においの中でも特に好ましいものを「香り」と呼び分けることがあると記されていました。「かおり」にも「香り」「薫り」「芳り」といろいろありました。この表現方法から見ても古来から私たち日本人にとって「におい」とは生活の中で常に関わり合い、暮らしに潤いを与える付加価値の高いものであったということよくわかります。

また、天然の香り（アロマオイルやお香など）と人工的につくられた香りについてもお話いただき、まさにミラノサローネと同じく「丁寧」「上質」のものを取り入れることの大切さを改めて知ることができました。

今回のインテリア講座は東京でも開催する予定です。詳細が決まりましたらメルマガで参加者募集いたしますので、ぜひご参加ください。